

○石積み棚田を核とした集落の活性化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	宮崎県日南市 にちなんし 坂元 さかもと 堂農組合 えいのうくみあい			
協 定 面 積 10.7 ha	田 (57%) 水稻	畑 (43%) 果樹、野菜	草地 -	採草放牧地 -
交 付 金 額 153 万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	水路・農道等の維持・管理		20%
		農用地等の維持管理		15%
		多面的機能を増進する活動		10%
		その他		5%
協定参加者	農業者 16人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全体で作成済み			

2. 取組に至る経緯

本集落は、日南市の西部に位置し、昭和初期に整備された集落内の石積み棚田は、坂元棚田として有名であるが、高齢化、過疎化が進む中、地域資源を集落全体で維持管理し、集落活性化を推進するため、平成12年度から本制度に取り組んでいる。

3. 取組の内容

平成18年10月に当市で開催された第12回全国棚田サミットを契機に、資源保全に向けた意識が更に高まり、平成20年度より、集落内の各種協議会を統合した「坂元棚田保存会」を新たに設立し、棚田の保全管理体制づくりと、より一層の集落活性化に向けた取組を行っている。

また、集落内の各種協議会と連携し、毎年3月開催の「棚田まつり」への支援や都市住民を対象とした棚田オーナー制度等、それに関連した集落情報の発信などに積極的に取り組み、その活動が定着してきている。

共同活動としては、農道・水路の管理、法面・石垣の定期的な管理を行っている他、更に、農業所得の向上のため、棚田米のブランド化に向け、販売用のパッケージを地元大学と協力して作成し、それを用いて棚田米を販売している他、地場産農産物を使った草団子（ヨモギ）・ソバ・大根や人参の漬物の加工品開発・販売等も「道の駅酒谷」と連携し取り組んでいる。



【非農家と連携した石垣清掃作業】



【棚田オーナーによる稲刈り体験】

【集落の将来像】

- 集落ぐるみの農業生産活動等体制整備



【将来像を実現するための活動目標】

- 平成18年10月に当市で開催された第12回全国棚田サミットを契機に、交付金を更に有効活用し、棚田の保全管理と集落活性化を推進する。

【活動内容】

農業生産活動等	多面的機能増進活動	農業生産活動の体制整備
農地の耕作・管理（田6.1ha） （畑4.6ha）	景観作物（れんげ、彼岸花） の作付け（約0.5ha）	「坂元棚田保存会」の設立による 集团的サポート体制の確立
個別対応	共同取組活動	共同取組活動
水路・作業道の管理 ・水路1.0km、年4回 清掃、草刈り ・道路2.0km、年4回 草刈り	「棚田（れんげ）まつり」 の開催（毎年3月）	棚田清掃ボランティアによる石 垣等の清掃作業（年2回実施）
共同取組活動	共同取組活動	共同取組活動
農地、法面、石垣等の定期的 な点検（年4回及び随時）	棚田オーナー制度の取組 （0.28ha、28組）	
共同取組活動	共同取組活動	



【集落外との連携】

- 山村振興事業により整備された「道の駅酒谷」と連携した地場産農産加工品の販売
- 主に集落外に居住する農業後継者グループ「若衆（わけし）会」と連携し、棚田保全等を推進する。

4. 今後の課題等

今後、協定参加者の高齢化・過疎化振興に伴い、農業生産活動等の継続が懸念されることから、集落外に居住する農業後継者グループ等との連携を強化し、地域資源の維持・保全に向けた営農体制づくりが課題となっている。

また、棚田オーナー制度等の取り組みにより、都市住民との交流が促進され、地域資源の保全に対する意識改革が図られているが、今後もこれらの体験型・交流型イベントを継続していくためには、更なる情報発信を行い、棚田米等を始めとする集落ブランド力を高め、販売拡大を図る必要がある。

【第2期対策の主な成果】平成21年度実績

- 石積清掃作業や景観作物作付による棚田景観の維持（清掃ボランティア参加者数：50名）
- 棚田オーナー制度の実施による都市住民との交流促進（オーナー参加数：31組）
- 「道の駅酒谷」と連携した地場農産物や加工品の販売による所得向上